

特別寄稿

長野県新産のヒルムシロ属の雑種オオササエビモ *Potamogeton* × *anguillanus* Koidz.

山ノ内 崇志*

New record of *Potamogeton* × *anguillanus* Koidz. on Lake Suwa, Nagano Prefecture

Takashi Yamanouchi

オオササエビモ *Potamogeton* × *anguillanus* Koidz. は河川・湖沼に生育するヒルムシロ科の多年草であり、ヒロハノエビモ *P. perfoliatus* L. とササバモ *P. wrightii* Morong を両親とする雑種である (Koidzumi 1929; Iida and Kadono 2002)。本雑種は関東以西の本州、四国、九州に分布するが (角野 1994, 2014)、長野県の植物誌 (清水・長野県植物誌編纂委員会 1997; 長野県植物目録編纂委員会 2017) には掲載がなく、全国の湖沼の水生植物相データベース (Nishihiro et al. 2014) でも長野県の湖沼からは記録されていない。著者は 2022 年 9 月 18 日に

諏訪湖の北東岸を踏査し、オオササエビモの生育を確認した。長野県での新産記録と考えられるため報告する。

オオササエビモが確認された地点は、諏訪湖の北東岸、衣之渡川の河口の北東約 60 m の湖岸 (36.0461 N, 138.1086 E) である。波打ち際の水深 5 ~ 10 cm の地点において、直径 30 ~ 80 cm ほどのパッチ状のオオササエビモ群落が 3 つ確認された。また、付近には両親種であるヒロハノエビモとササバモが、それぞれ沈水状態と陸生状態で生育していた (図 1)。なお、調査時の水位は衣ノ渡

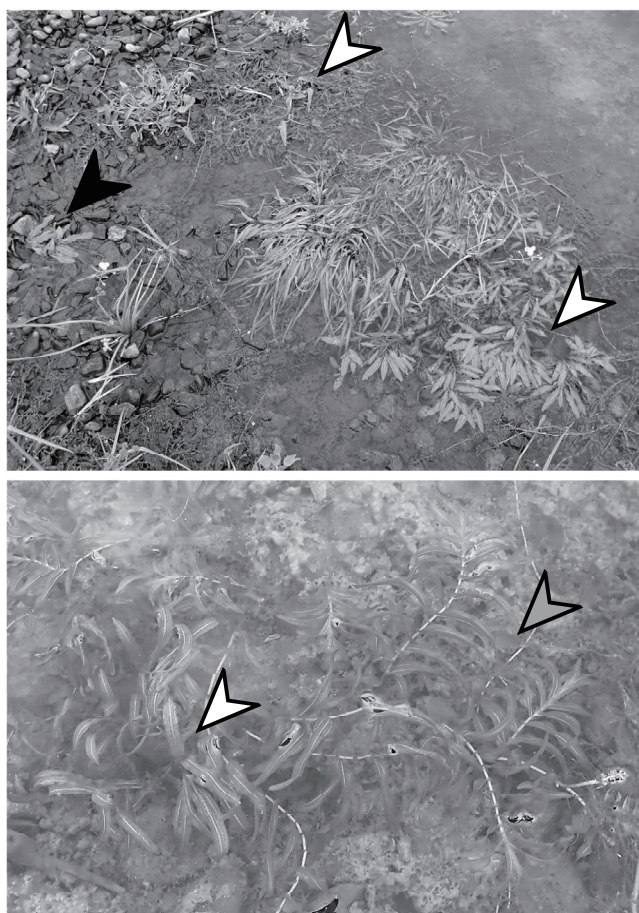


図 1. オオササエビモの生育状況。

上段：汀線付近に生育する沈水葉および浮葉をつけたオオササエビモ (白矢じり) と陸生型となったササバモ (黒矢じり)。他にオモダカ、コナギ、タマガヤツリ、クロモ、セキショウモなどが混生している。下段：混生するオオササエビモ (白矢じり) とヒロハノエビモ (灰色矢じり)。

* 福島大学共生システム理工学類 〒960-1296 福島県福島市金谷川 1

(衣之渡川)において0.68 mであった(釜口水門管理システム http://www.lcv.ne.jp/~suwaken/pc_public/index.html, 2022年9月19日確認)。

本種はよく生長した場合には長さ1 m以上に達するが(角野 2014)、観察されたパッチはいずれも茎長60 cm未満であり、花序の形成も確認されなかった。オオササエビモのパッチのうち、2つは沈水葉のみをつけ、1つは浮葉を形成していた(図1、上段)。オオササエビモは両親種の父母の組み合わせによって浮葉形成能に差があり、ササバモを母親とする場合に浮葉形成能を持つことが知られている(Iida et al. 2007)。このことから、諏訪湖には少なくともササバモを母親とする系統があると推察される。

オオササエビモとその両親種であるヒロハノエビモ、ササバモの葉を図2に示す。諏訪湖産のオオササエビモは、葉長3.8~8.7 cmであり、葉形は長披針形で葉縁は波打ち、葉柄はない。ヒロハノエビモでは葉身基部から伸びる5-7本の淡色の平行脈が目立つのに対し、オオササエビモは見かけ上は羽状脈状で、特に生時は中脈と格子状の支脈がよく目立つ(図1、下段)。そのため一見した印象はササバモに似るが、明らかに葉柄を欠くため、手に取って観察すれば識別は容易である。

標本

証拠標本は福島大学貴重資料保管室植物標本室(FKSE)に収蔵予定である。

オオササエビモ *Potamogeton* × *anguillanus* Koidz.: 長野県諏訪市湖岸通り5丁目地先, Sep. 18, 2022, Yamanouchi 2022-4.

ヒロハノエビモ *Potamogeton perfoliatus* L.: 長野県諏訪市湖岸通り5丁目地先, Sep. 18, 2022, Yamanouchi 2022-3.

謝辞

小林智子氏、山下由美氏には、現地調査とその後の執筆においてご助力を頂いた。また、藤田淳一氏には長野県での報告状況のご教示に加え、執筆を勧めていただいた。記してお礼申し上げる。

文献

Iida, S. & Kadono, Y. (2002) Genetic diversity

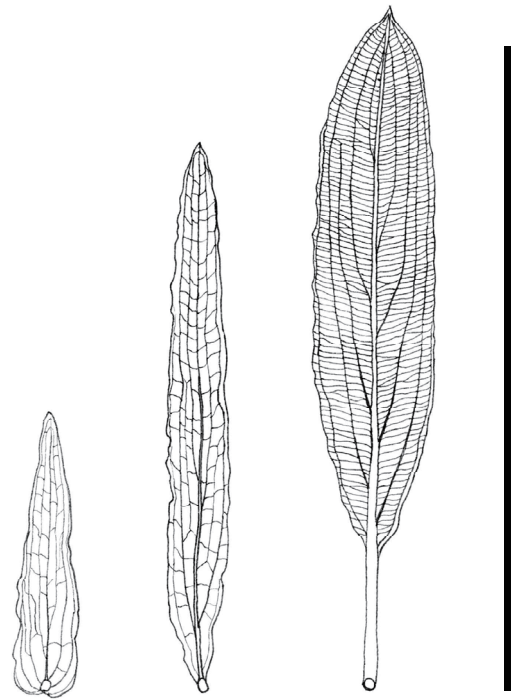


図2. 左より、諏訪湖産のヒロハノエビモ、同オオササエビモ(ともに2022年9月18日採集)、高知県高知市泉川産のササバモ(2008年8月23日採集)。

野外ではそれぞれかなり大きい形態的可塑性を持つことに注意。スケールバーは10 cm。乾燥標本に基づき描画。

and origin of *Potamogeton anguillanus* (Potamogetonaceae) in Lake Biwa, Japan. *Journal of plant research* 115: 11-16.

Iida, S., Yamada, A., Amano, M., Ishii, J., Kadono, Y. & Kosuge, K. (2007) Inherited maternal effects on the drought tolerance of a natural hybrid aquatic plant, *Potamogeton anguillanus*. *Journal of plant research* 120: 473-481.

角野康郎(1994) 日本水草図鑑. 文一総合出版.

角野康郎(2014) 日本の水草. 文一総合出版.

Koidzumi, G. (1929) *Contribuciones ad cognitionem asiae orientalis* (Continued from Vol. XL p. 348.). *The Botanical Magazine, Tokyo* 43: 382-407.

長野県植物目録編纂委員会 編(2017) 長野県植物目録: 長野県植物誌改訂に向けてのチェックリスト 2017年版. 長野県植物目録編纂委員会.

Nishihiro, J., Akasaka, M., Ogawa, M. & Takamura, N. (2014) Aquatic vascular plants in Japanese lakes. *Ecological Research* 29: 369.

清水建美 監・長野県植物誌編纂委員会 編(1997) 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社.